

学校法人冲永学園 中長期計画 (2023 年度～2027 年度)

学校法人冲永学園は、1955 年の設立以来社会のニーズに対応した教育内容の改善と向上、組織の設置・改編、校舎及び施設設備の改装を重ね、現在は傘下に短期大学 1 校、高等学校 1 校、中学校 1 校、幼稚園 2 園を擁しています。本学園では、設立以来「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも活かしつつ、教育内容の充実に努めてまいりました。第 1 期中長期計画(2018～2022 年度)の取組み結果を踏まえて、2023 年度を初年度とする第 2 期中長期計画を作成いたしました。

1. 帝京短期大学

本学では、創立以来「礼儀・努力・誠実」を建学の精神の柱として掲げ、建学の精神に基づいた人格を磨き社会に役立つ実学を重視してまいりました。

現代の社会においては、国際化、社会の情報化、少子・高齢化が一段と加速し、価値観が複雑、多様化し、人材のあり方はますます変化し、職業の専門化・細分化も進んでいます。そのため、それぞれの分野では確かな知識・技術をもち、かつ、物事に柔軟に対応できる充実した心や豊かな感性を備えた人材が強く求められています。

本学では、そうした社会状況や学生のニーズに的確に対応するべく、充実したカリキュラムを提供するとともに、さまざまな改変を試みてまいりました。第 2 期中長期計画におきましても、教育および研究、学生への支援、社会への貢献、大学組織の改革、入試制度の改革を主な柱としています。今後も、「建学の精神」を堅持しつつ、この中長期計画を基に、教育内容と質を更に向上させるよう努めてまいります。

目 標	計 画
I. 教育・学生支援に関する計画	
1. 教育課程における教育内容の改善	
1. 教育活動が大学の教育理念・目標を踏まえたものとなっているか検証評価し、教育の質を担保します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育と学生支援の内容を検証評価するために、大学と学科の方針を策定する。 2. 自己点検評価の結果に基づいて改善策を実行し、教育活動の質を向上させる。
2. 時代の変化に即応し、カリキュラムの改定と授業内容を見直します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム改定に対応するため授業内容と方法を定期的に見直す。 2. 実習、演習内容を充実させ現場対応力のある学生を育成する。医療系学科では、これからの医療において他の医療職と連携し高い専門性を発揮できる医療人を養成する。 3. 渋谷区との包括連携契約の下、地域貢献活動を推進し、学生の社会性の育成と地域への貢献を図る。
3. 入学から卒業までの教育内容を体系的に学ぶことができますようにします。	<ol style="list-style-type: none"> 1. IR 活動を通じて学修成果を可視化し、学生自らが成長度、満足度を実感できる教育を展開する。 2. 体系的に学修することができるよう授業の実施方法を見直す。また、シラバスやカリキュラムマップの記載方法を定期的に見直す。
4. 単位の実質化を図ります。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の事前・事後学修時間を把握する。 2. 単位数に対して授業計画が適切か、シラバスを定期的に見直す。
2. 教育力の向上	
1. アクティブラーニング型授業の導入を推進します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題発見・解決に向けて学生が主体的に学ぶアクティブラーニング型授業について、教員の理解や実践に役立つ研修を実施する。
2. 学生による授業評価アンケート結果を授業改善とシラバス改善に結びつけます。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業評価アンケート結果を授業改善に結びつけるための検討を継続する。設問項目等を見直し、シラバス記載内容との関連性を高めることで、シラバスの改善と有効利用を推進する。
3. 教員研修、公開授業等を通して教員の教育力を高めます。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専任教員間で授業を公開し、参考になる点を学び、意見交換を行う。 2. 各自が関連科目の授業実態を知ること、自己の授業改善に役立てる。

3. 教育環境の整備	
1. 学修支援のため、ICT を活用した教育システムを構築します。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学生自らが自身の履修状況を確認し主体的に学びが行えるよう学修ポートフォリオシステムの導入を推進する。 2. 図書館・ラーニングコモンズの利用を促進し、教育指導の強化及びアクティブラーニングの支援を図る。 3. ICT 活用の為に、学内コンピュータシステムの継続的な充実を図る。 4. ICT を活用した教育に不可欠な、コンピュータリテラシー教育及びデジタルネットワーク時代の著作権に関する理解・知識を教職員と学生に浸透させる。
2. 学生及び教職員にとって適切な施設を提供するとともに経営の効率化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 計画的な施設・設備の改修、更新により適切な教育研究環境を提供する。
4. 学生支援の充実	
1. 心身に問題を抱えた学生に対する相談体制を充実していきます。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 合理的配慮総合相談窓口を設置する。学生支援関連部署の役割を明確にし、連携・協働して心身上の相談・支援に当たる。
2. 経済的理由により修学が困難となった学生に対する支援を充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 奨学金制度の充実を図る。
3. 就職・進学に対するサポート体制を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学生一人ひとりの多様なニーズに対応できるよう情報を収集し、就職活動の支援を充実させる。 2. 卒業生や就職先へのアンケートを基に学生や社会のニーズを把握し、キャリア教育を改善する。

目 標	計 画
II. 研究に関する計画	
1. 研究拠点化の推進	
1. 研究拠点の形成を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 社会的要請の高い研究や共同研究を推進する。
2. 研究資金の確保	
1. 教育の基礎となる研究の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 外部研究資金の獲得に努める。 2. 研究不正防止に努める。

目 標	計 画
Ⅲ 大学運営組織の改善	
1. 組織の改革	
1. 学科・専攻・コース等の改編を検討します。	1. 国際化や産業構造など、社会の変化に対応するため、また、学生の社会人としての意識を醸成するため、学科・専攻・コース等の改組・改編について検討する。
2. 大学の運営に関する危機管理体制の強化を図ります。	1. 自然災害等の緊急時に迅速な対応ができるように、危機管理体制を強化する。 2. 自然災害やサイバー攻撃等を想定し、情報システムに関するセキュリティ対策強化、ポリシー策定を行い、異常発生時の対応について策定する。事業継続計画の策定も検討し、事業の安全性と継続性を担保する。
2. 自己点検・評価活動の推進	
1. 自己点検評価を行い、大学運営の改善に反映させます。	1. 自己点検評価を定期的実施し、恒常的な PDCA 実施体制を確立する。
2. 教育研究活動等の情報の公表に努め、高等教育機関としての社会的説明責任を果たします。	1. 情報公開及び広報活動の内容・方法を点検し、改善を行う。 2. 多様な手段を用いて、大学の教育研究に関する広報活動を行う。 3. 資格取得など学び直しの場としての広報活動を検討する。
3. 安定した財務基盤の維持	
1. 志願者増・学生確保に取り組めます。	1. 優秀な学生を継続的に確保するため、下記により広報、募集活動を強化する。 (1)多様な学生に対応した入試制度の整備。 (2)オープンキャンパス、入試説明会の開催回数を増やす。 (3)入試広報課職員に加え教員の高校訪問による募集活動。 (4)グループ大学と連携した入試相談会参加や高校訪問。 (5)Line、Twitter 等 SNS を利用した志願者への細やかな対応。
4. SD(スタッフ・ディベロップメント) の推進	
1. 教職協働体制をさらに推進します。	1. 教職員としての能力や資質を向上させるための研修や取り組みを拡充し、教職協働で新しい課題に取り組むため SD 活動を推進する。

目 標	計 画
IV. 入試制度改革	
1. 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）に基づいた入学者選抜の実施	
1. 入学者受入れの方針に基づいた適切な学生募集の展開及び入学者選抜を実施します。	1. 入学者受入れの方針が卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成実施の方針を踏まえているかを点検する。 2. 入学志願者に対して、入学者受入れの方針に関する情報の提供を行う。 3. 卒業時調査により入学者受入の方針に沿った人材が入学しているか検証する。
2. 新たな入試改革を見据えた高大接続の推進	
1. 高校生の学習・進学に対する意欲向上を目的として、高大連携を検討していきます。	1. 高大接続に基づいた入学者選抜体制を整備する。

2. 帝京八王子中学・高等学校

【教育指導方針】

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とします。努力をすべての礎とし、教育目標達成の手段として校訓「礼儀・努力・誠実」を定め、入学した生徒が一人の例外なく大きな成長を遂げて卒業、更には希望進路を実現し、社会に出てからも必要とされ、役に立つ人材となるよう、面倒見よく、愛情に裏打ちされた、厳しさの中にも温かさをもった教育・指導・助言を行います。また、それらを実現させるため、IT 機器の積極的な利用や協働学習など先進性を重視し、教職員への研修を計画的に行います。

生徒募集から進路指導まで全体的な底上げを行い、広報・教務・生徒指導・進路指導・学習指導・事務局が協力して本校の魅力を高める取り組みを行います。広報は説明会の時間や内容の見直し、塾など他の教育産業と情報交換による最新情報の収集、中高とも制服の変更を行いました。教務部では進路指導部と協力し、より高い進路実績を実現するため、学習指導と進路指導を一貫させ、生徒への夏期講習・勉強合宿の立案、実施および研究、指導を行うとともに、高大接続では帝京平成大学と高大連携協定を結びました。そして、より良い教育を求め、情報収集、アクティブラーニングの研究・実践に取り組んでまいります。

【大学入試・中高一貫教育】

大学入試改革に向けた取り組みとして重視される「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能や、「思考力」「判断力」「表現力」を培うために、日常の記録を文章に表し、ポート

フォリオをしていく取り組みを続けてまいります。さらに総合的な学習・探求の時間では、自己や社会に関するテーマを設定してのグループワーク、プレゼンテーションを通じて思考力、表現力、問題解決に向けての協働する力を養成してまいります。

中学では主体的・対話的で深い学びの実現や読解力と表現力の向上に焦点をあてた取り組みを総合的な学習の時間において行いました。高校では生徒の個性・特長をさらに伸ばし、大学入試改革に対応できるよう、国際文化・言語文化・人文社会・科学探求の4コース編成にカリキュラム変更を行いました。

国際理解教育として、日本と海外の歴史・文化を比較学習し、また、日本を含めた国際社会の現在や、SDGsを目指すこれからの社会を、中高で一貫した学習テーマとして取り組んでまいりました。

【生徒募集】

体育館「蔦永館」を始め本校施設を有効に活用し、より優れた教育を行い、その魅力を広く地域社会に周知することで、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学の実現を図ります。学校新聞を創刊し、ホームページ上に載せることで、近隣の中学校や塾だけでなく、法範囲にわたり帝京八王子の取り組みを周知し、生徒募集に繋げています。従来の学校説明会だけでなく、近隣中学校へは模擬授業を実施、塾との協力ではオンラインによる説明会や相談会を実施してきました。

高等学校では、独自の教育課程となる4コース(国際文化・言語文化・人文社会・科学探求)を設けており、各コースの教育内容、進路を内外に明確に示し生徒募集強化に努めます。

国際文化コースは、英語に重点をおいたカリキュラムとし、世界文化を学び、国際社会への理解を深め、自らの考えを英語で発信する人物の育成を目指します。外国語学、国際関係学の進路の他、海外留学も進路のひとつとし、国内外で活躍する人物の育成を目指すコースです。

言語文化コースは、国語、歴史に重点をおいたカリキュラムとし、人間文化への理解、幅広い教養を身につけ、実社会に応用していく人物の育成を目指します。文学、史学、哲学、心理学、教育学などを進路とし、人間関係について深い理解を持ち、実社会において活躍する人物の育成を目指すコースです。

人文社会コースは、地理歴史分野と共に、政治や経済などの公的的分野に重点をおいたカリキュラムとし、現在の国内外の状況および国際情勢への理解を深め、現代の諸課題を追求する思考力を持ち、社会貢献できる人物の育成を目指します。政治学、法学、経済学、経営学、商学などの、より現代社会に密接に係わる分野へ進学し、より良い社会、より良い未来を創造していく人物の育成を目指すコースです。

科学探求コースは、数学と理科に重点をおいたカリキュラムとし、データを基にした客観的な視点で物事を分析、試行錯誤をしながらも、真理への飽くなき探究心を持って、科学技術の発展に貢献する人物の育成を目指します。理学、工学、農林水産学などの基礎科学や、医学、薬学、歯学、医療技術学等への進路を目指し、科学技術で社会活躍を豊かにする人物の育成を目指すコースです。

【IT教育・その他】

ICT教育に対しては、校内LAN環境の整備を進め、タブレットの導入・効果的な活用の、より望ましい形を見極めるための情報収集を行い、導入を検討いたします。その実現に向けて、高速通信回線を確保するため、帝京短期大学と協力してSINETに参加・接続をいたしました。

本校は市街地より離れた場所にあるため、インターネットの活用、また、通学の利便性向上のために、スクールバスの運行状況、路線の見直し、拡充を進めてまいります。

本校近隣地域でのボランティア活動等を通じて社会貢献を行い、地域社会に本校の教育が理解され、支持されるように取り組んでまいります。

3. 帝京めぐみ幼稚園

「よく見る」「よく聞く」「いろいろ体験する」を保育の重点とし、遊びの充実を図り、自己発揮する子どもを育てます。よく考える子ども、進んで行動する子ども、心動かし感動する子どもの育成をこれからも教育目標としてまいります。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施いたします。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施しています。さらに、帝京短期大学キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や幼稚園内外の様々な人々との係わりなど、これからも社会体験、直接体験のできる場を取り入れてまいります。また、園児の健やかな発育を促す施設設備の更新に努めてまいります。

4. 帝京にしき幼稚園

本園は学齢前の幼児を幼児にふさわしい教育環境の中で保育し、「よくみる・よくきく・よくする」をモットーとし、自己を発揮できるよう、のびのびできる環境のもと、礼儀正しく、思いやりのある心を持つ子どもの育成をめざしてまいります。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽など表現する楽しさや感動する心を育てます。

子どもたち一人ひとりの力を信じ、これからの時代に必要な「自分で考える力」を育むため、教員一人ひとりが子どもたちの自己が発揮できるよう寄り添っています。そのためには、指導計画立案の充実を図り、幼児の発達を見通し、その発達が可能となるよう、それぞれの時期に必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行います。また、園児の健やかな発育を促す施設設備の更新に努めてまいります。

以上